

稲城野草散策の会

野草スケッチ チダケサシ（ユキノシタ科）



1996/07/03 稲城市坂浜 絵と文 Ta

チダケサシとは奇妙な名前だ。

チダケというきのこをこの草の茎に刺して持ち帰ったことからついた名前だそうで、信州の山の人たちの習慣からきているという。

チダケは傷をつけると白い乳液を出すきのこで、チチタケのことらしい。

会報第56号 2009年08月22日発行 発行責任者 尼子 房夫

チダケサシについては、実物よりも先に図鑑で覚えた。

図鑑で見て、何となくこころ惹かれる花は、いつか見てみたいという気持ちが高まる。

そう念じていれば、いつかチャンスが巡ってくる。

友人たちも、見たい見たいと思っていれば見れるものだ、と同じことを言う。

漠然とフィールドを歩いているよりも、見逃さずにキャッチできる確率が大きくなるというわけだ。

見たいと念じたかいがあったのか、稲城市坂浜でチダケサシに出会えた。

残念ながら自力での「発見」ではなかった。

私の植物師匠、曾根先生（故人）に教えていただいたのである。

おお、これがチダケサシか・・・しばらく眺めていた。

いい花である。ピンクのプチプチがなんとも可愛らしい。

チダケサシがあったのは、西小田良と呼ばれる谷戸である。

有岡先生（キツリフネの項参照）と出会った場所でもある。

位置的には、第二中学校と稲城市キャンプ村（ヤマドリソウの項参照）とに挟まれている。

キャンプ村入り口から入るのがわかりやすい。

谷戸を見下ろす丘から見ると、四方を囲まれていて、まるで江戸時代の「隠し田」だ。

この谷戸の田んぼの水源は湧き水である。

谷戸の一番奥から流れ出た清水が、他の谷の水も集めて、やがて用水路になり小川になる。

水生動物には詳しくないのだが、ホトケドジョウもいるという。

田んぼには養殖であるが、タニシも棲息している。

あまり農薬は使っていないらしい。

ここは私にとって、とっておきの「秘境」である。

できればそっとしておきたいフィールドだ。

高度成長期以前の日本でなら、ごく普通だった風景がそのまま残っているなんて、いまや貴重品といっても過言ではない。

かつて、いくらでも見られた草花が咲いている。レッドデータブック（ミクリの

項参照)に名を連ねている水辺の植物たちである。
オニヤンマなどのトンボも昔ながらに飛び交っている。

以前、ここを訪れた子連れの子連れの団体が、昆虫を追いかけて、植えたばかりの田んぼへ入り込んで荒らし回るといふ、不幸な出来事があった。
農家の方はカンカンに怒った。あたりまえだ。
責任者を探し出して謝罪させたそうである。

われわれが気分良く観察できるフィールドは、雑木林にしろ田んぼにしろ、自然にできあがったものではない。

農家の方のたゆまぬ努力の結果として、すばらしい環境が維持されているのだ。
田んぼを荒らすのは論外だが、決して迷惑をかけるような行為をしてはならない。
それが観察の最低限のマナーである。

農家の方が居られたら、できるだけ話し掛けて、こちらの意図を説明するようにしている。

谷戸の今昔や、キツネを見たなどの情報を教えてもらえることもある。

そうした友好関係を維持していくことは観察に劣らず大切なことだと思う。

(2000年7月記)

* * * * *

〔観察記録〕 7月4日 真鶴

天気予報では、ずっと雨という予報で来ましたが、当日になると曇りから晴に変わり、歩き出すと快晴の天気になりました。参加者は49人でした。

下見で自動車の通る道を歩くのは危険ということが分かり、真鶴駅からの往路はバスに変更しました。

今回のコース：真鶴駅…(バス)…中川一政美術館→十字路→森林浴遊歩道→番場浦遊歩道→潮騒遊歩道→海岸で昼食→御林遊歩道→中川一政美術館…(バス)…真鶴駅

お林展望公園では、ノウゼンカズラ、ブーゲンビリア、めりべさんが「おしゃべりるーむ」で紹介されていた“スパイダー・フラワー(シコンノボタン)”の花も見られました。歩き出すとすぐにサンゴシトウ(珊瑚棘桐)の真っ赤な花がありました。(ノウゼンカズラはマダム・ガレンではなかったようです)

今日は「運がよければマヤランが見られますよ」ということでスタートしましたが、下見の時には一つも見られなかったタシロランがスタート直後に見られたあと、マヤランの花も見つかり、ナギランの葉、コ克蘭の花もあって、ラッキ

ーだったと思います。特にタシロランはコースのあちこちで沢山見られました。海岸では、スカシユリの群生が咲いていて、海岸性の植物も色々ありました。天気も好転し、林の植物、海岸の植物と観察出来て、良い観察会になったと思います。(FAM)

▲観察記録(番号順)

(01)オオイタチシダ、(02)ヤマカモジグサ、(03)ホシダ、(04)タシロラン(花)、(05)キチジョウソウ、(06)フモトシダ、(07)マルバグミ、(08)イヌビワ、(09)スタジイ、(10)アスカイノデ、(11)ムクノキ、(12)ハエドクソウ(花)、(13)ヤブミョウガ、(14)チチミザサ、(15)オオバウマノスズクサ、(16)オオアリドオシ、(17)トベラ、(18)ウラシマソウ、(19)ホウチャクソウ(実)、(20)リョウメンシダ、(21)クスノキ、(22)サネカズラ、(23)マヤラン(花)、(24)シロダモ、(25)マンリョウ、(26)ノササゲ(花)、(27)ヤブニッケイ、(28)ムラサキニガナ(花)、(29)マルバノホロシ、(30)カラスザンショウ、(31)イヌマキ、(32)ハリギリ、(33)フウトウカズラ、(34)クロマツ、(35)アカメガシワ、(36)ハゼノキ、(37)ナギラン、(38)ヌルデ、(39)マサキ、(40)ムラサキシキブ、(41)ホソバカナワラビ、(42)オニヤブソテツ、(43)タチシノブ、(44)クマワラビ、(45)アマクサシダ、(46)オオバイボタ、(47)ヒメユズリハ、(48)ヤナギイチゴ、(49)コモチシダ、(50)ノハカタカラクサ、(51)ツルソバ、(52)メヤブマオ、(53)ヌマダイコン、(54)カラスウリ、(55)キブシ sp、(56)ノキシノブ、(57)カラムシ、(58)エノキグサ、(59)サルトリイバラ、(60)カジイチゴ、(61)アキカラマツ、(62)ツボクサ、(63)コバナタツナミ、(64)センニンソウ、(65)ハマオモト、(66)エビツル(花)、(67)ラセイタソウ、(68)アレチギシギシ、(69)シロバナマンテマ(花)、(70)テリハノイバラ(花)、(71)コマツヨイグサ(花)、(72)ママコノシリヌグイ(花)、(73)ツルナ(花)、(74)ボタンボウフウ、(75)ハマダイコン(花)、(76)ハマサオトメカズラ、(77)イソギク、(78)スカシユリ(花)、(79)コセンダングサ、(80)ノブドウ、(81)ハマヒルガオ、(82)ネコノシタ(花)、(83)ハマエンドウ(花)、(84)ハマボックス、(85)アメリカイヌホオズキ(花)、(86)ヒヨドリジョウゴ、(87)(欠番)、(88)ヤマホタルブクロ(花)、(89)オオバヤシャブシ、(89 重複)コマツナギ(花)、(90)ハマゴウ(花)、(91)ハマエノコロ、(92)ハマツメクサ(花)、(93)ソナレムグラ(花)、(94)ジシバリ(花)、(95)マルバアキグミ、(96)ヤブジラミ(花)、(97)ハマカンゾウ(花)、(98)クサイチゴ、(99)ウマノミツバ、(100)コ克蘭(花)

番号外：ハシゴシダ、コハシゴシダ(FAM)

真鶴観察会ご参加の皆さん、お疲れさまでした。

まずは、お詫びから・・・。御林展望台の所にあったノウゼンカズラspは、マダム・ガレン（ノウゼンカズラ×アメリカノウゼンカズラ起源の園芸品種）ではなく、「ノウゼンカズラ」そのもののようです。何か、大きな勘違いをしていたようで、本当に申し訳ありませんでした。

ところで、ノウゼンカズラは、漢語で「凌霄花」と書きますが、「凌」は「～をしのぐ」という意味を表し、「霄」は「空」を表しています。つまり、空をしのぐくらい、高いところまで這い上がる植物である、というのがその名の由来であるようです。（めりべ）

◆ハマゴウ

真鶴の観察会でハマゴウが咲き始めていました。「ハマゴウの語源は何」という質問がありました。説は色々あるようですが、ご参考まで。

『紀州採薬記』にでてくる浜香（はまごう）の語源は民族植物学的な立場からみて捨て難い。それは、この葉をつきつぶして抹香（まっこう）を作ったからで、浜べで生産される香の原木だという語源説なのである。ハマシキミという方言なども抹香との関連を暗示しており、昔、抹香を作った史実が確かなら、私はむしろこの方をとりたいたいところである。[植物の名前の話 前川文夫著]

蔓荊のハマゴウは、小野蘭山の『紀州採薬記』をはじめ、各種の本草書に浜香とあり、この植物に独特の香気のあるところから名付けられたものであろう。[植物和名新考 深津正著]

どなたかハマゴウの花のにおいをかいで、いい香りよと言っておられました。（FAM）

真鶴の海岸でのハマゴウの写真です。撮影者：めりべさん



〔観察記録〕 7月26日 駒沢学園周辺

雨から曇りに変わって来ていた天気予報が快晴になり、暑い一日でした。ただ木陰に入ると涼しい風があり、少しはしのげました。暑いことが予想され、会長から日射病にならないよう水分の補給をして下さいという注意がありました。

本日の案内は馬場さん。稲城駅から三沢川に沿って歩き、田圃ではオモダカの白い花やコナギ、クログワイなどが見られました。三沢川では刈られたヤナギが大きくなっています。駒沢学園の下の雑木林の中で、お目当てのヤマユリが大きな花を咲かせていました。きれいでしたよ。

駒沢学園の食堂を借りて昼食をとりました。学園から記念のひのきの箸をいただき、全員に配られました。

午後は学園の中のコースを廻り、引き続き清水谷戸を観察したところで解散。ここから稲城駅までの道を観察しながら帰りました。(FAM)

▲観察記録 (番号順)

(01)ヤドリギ、(02)ヒオウギ(花)、(03)オモダカ(花)、(04)クログワイ、(05)コナギ、(06)タチヤナギ、(07)オノエヤナギ、(08)イヌコリヤナギ、(09)カワヤナギ、(10)ワルナスビ(花)、(11)シャクチリソバ、(12)ヤマノイモ(花)、(13)カラスウリ(花)、(14)ママコノシリヌグイ(花)、(15)ゴマダラオトシブミ、(16)ニガクサ(花)、(17)トキワツユクサ(花)、(18)ヒメヒオウギズイセン(花)、(19)オニドコロ(花) (実)、(20)ムラサキエノコログサ、(21)オニユリ(花)、(22)ヤマユリ(花)、(23)ヒヨドリバナ(蕾)、(24)オニドコロ、(25)アキノタムラソウ(花)、(26)オカトラノオ(実)、(27)ヤマハギ(花)、(28)サワフタギ、(29)マルバハギ(花)、(30)ヤマニガナ(花)、(31)オトギリソウ、(32)ゴンズイ(実)、(33)ヤブレガサ、(34)クヌギ、(35)コナラ、(36)ニガキ、(37)ミゾシダ、(38)ハリガネウラボ、(39)オオバギボウシ、(40)カシワバハグマ、(41)ホオノキ、(42)コバノガマズミ、(43)ヤブムラサキ、(44)ツリバナ(実)、(45)アオハダ、(46)ウワミズザクラ、(47)ウグイスカグラ、(48)ハナイカタ、(49)コブシ、(50)シロダモ(実)、(51)カマツカ、(52)アカショウマ、(53)ハンショウツル、(54)アワブキ、(55)タマアジサイ、(56)サネカズラ、(57)サンショウ、(58)ムラサキシキブ、(59)ヤブムラサキ、(60)マルバウツギ、(61)エゴノキ、(62)ヤマコウバシ、(63)ホオノキ、(64)イヌシデ、(65)ヤブミョウガ、(66)コクサギ、(67)ノササゲ(花)、(68)コウヤウラビ、(69)イヌウラビ、(70)シオデ、(71)ムカゴイラクサ、(72)カノツメソウ、(73)スズメウリ、(74)ガマズミ、(75)ヤマトリカブト、(76)サラシナショウマ、(77)ケキツネノボタン(花) (実)、(78)ユウガギク(花)、(79)ノカン

ゾウ、(80)ムクノキ、(81)イヌザクラ、(82)ミドリヒメワラビ、(83)シケシダ、(84)ミサキカグマ、(85)ゲジゲジシダ、(86)キクバドコロ、(87)ベニシダ、(88)ゼンマイ、(89)イヌガンソク、(90)キツネノボタン(花) (実)、(91)ミヤマシラスゲ、(92)コシロネ、(93)ヤマイタチシダ、(94)アメリカノウゼンカズラ(花) (FAM)

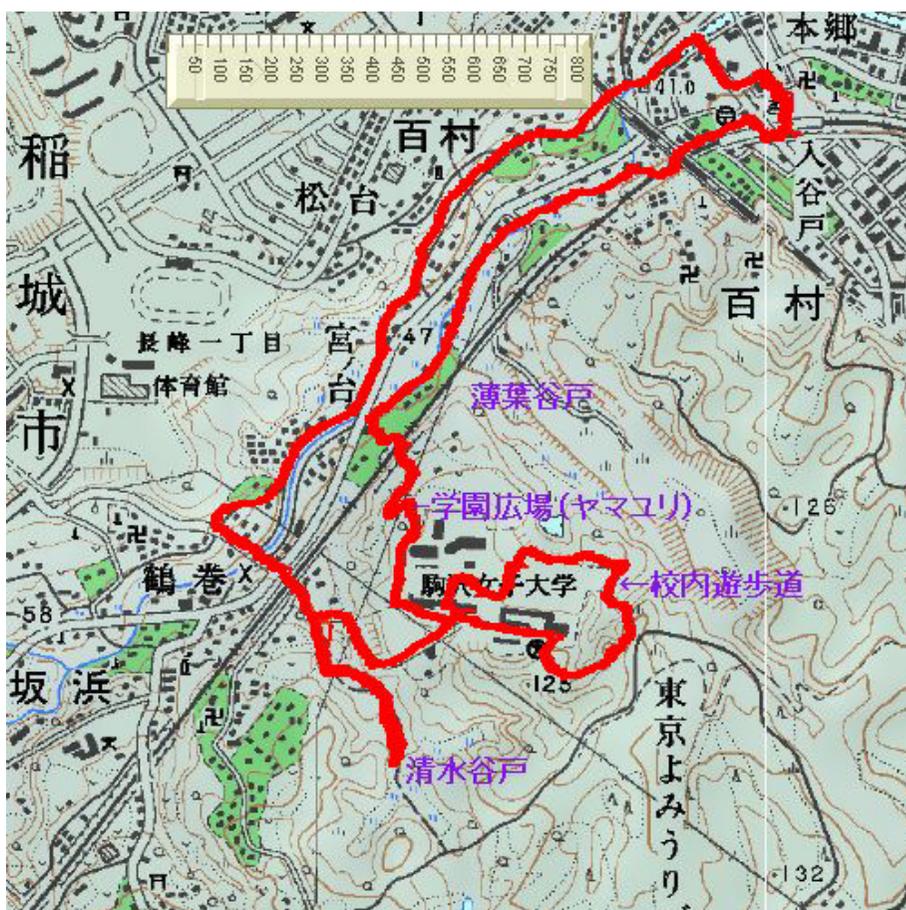
みなさま、お疲れさまでした。暑かったですね。

(24) (オニドコロ) は当初ヒメドコロだったのですが、見間違いとわかり訂正されたものです。

でも、駒沢学園の構内(山から下りて門へ向かう途中)でヒメドコロを確認していますので、記録としては加えてよいと思います。

校内遊歩道でマヤランが出るかと期待しましたが、見つけれませんでした。(T a)

◆今回のコース



〔行事予定〕 2009/8/22 (日) 大丸用水

項目	説明
集合	am10時、JR南武線南多摩駅 改札口付近 ※会旗目標 改札口は一個所だけです
交通	南武線はJR川崎駅と立川駅の間、多摩川に沿って走っています 南多摩まで川崎から約45分、立川からは約15分（乗換えなし） 電車は10分程度の間隔で運行されています（すべて各駅停車）
行く先 (解散場所)	JR南多摩駅 → JR矢野口駅（下の地図を参照ください） 矢野口駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	多摩川の大丸堰近くでは奥多摩から流れ着いたと思われるナンバン ハコベが見つかるかもしれません 水辺の環境と、畑・路傍などの乾燥地とで植生がどう違っているか、 観察するのも面白いと思います 大丸用水については、野草スケッチ「ミゾソバ」のエッセーを参照 してください http://homepage3.nifty.com/inagiyasou/essay/e087.htm

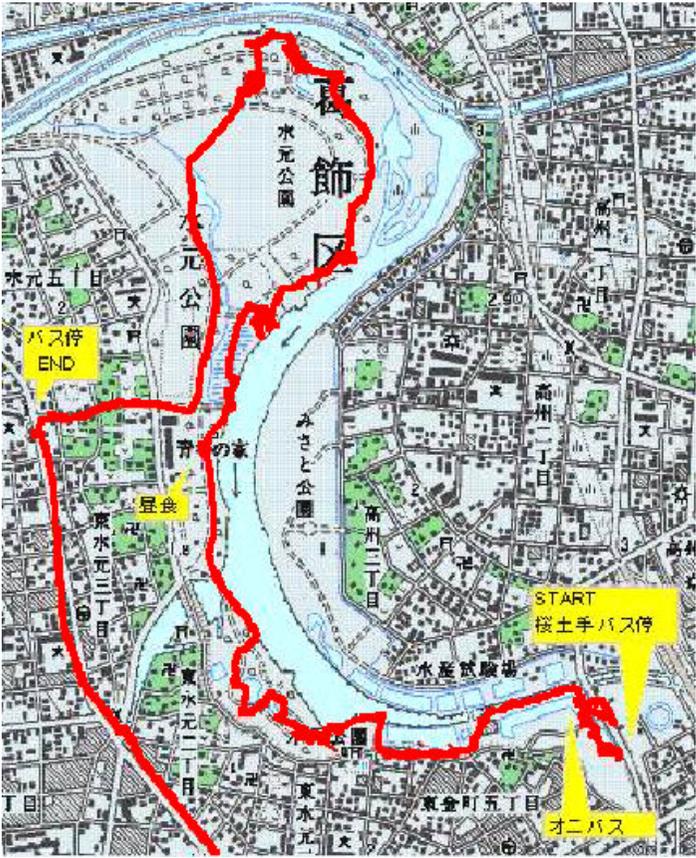
地図



コース	南多摩駅～大丸堰～南多摩駅裏～大丸自治会館～北緑地公園～ニセ アカシア～矢野口駅（解散） 行程5 km程度、アップダウンはありません コースは天候その他により変更する場合があります ご用の方は途中で抜けても構いません
-----	--

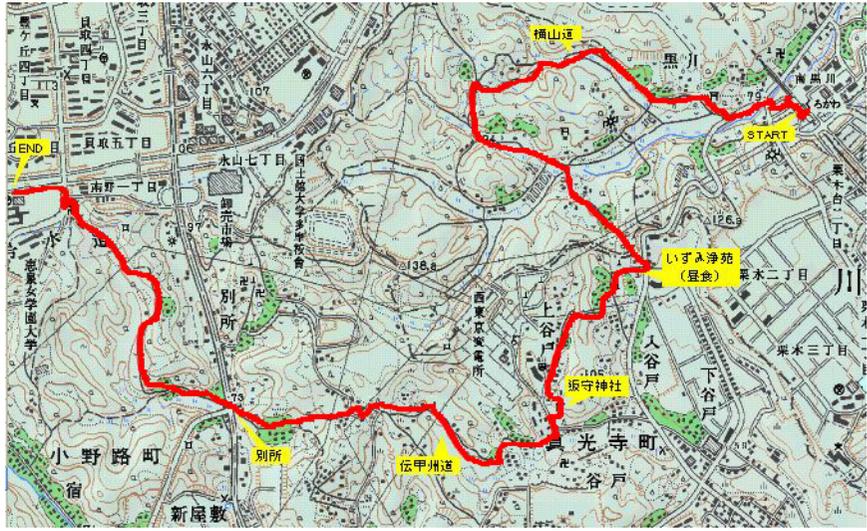
※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2009/9/5 (土) 水元公園

項目	説明
集合	am10時、JR常磐線金町駅 南口 ※会旗目標 改札口は一箇所だけです
交通	JR常磐線、地下鉄営団千代田線をご利用下さい。 金町駅前から三郷団地行きのバス10:11に乗りますので、これに遅れないようにお願いします
行く先 (解散場所)	水元公園園内観察 JR常磐線金町駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	目玉のオニバスのほかアサザ、ゴキツル、ミズネコノオなどの水中～水湿地植物。秋の草花、公園内の樹木など
地図	
コース	JR金町駅南口→(バス)→桜土手→アサザの池→オニバスの池→公園内散策→青年の家(昼食)→公園内北上→ミズネコノオ自生地→公園内南下→公園入り口→バス停→(バス)→金町駅南口(解散)

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2009/9/27 (日) 黒川～真光寺 (別所)

項目	説明
集合	am10時、小田急多摩線黒川駅南口階段下 ※会旗目標 改札口は一個所だけです
交通	小田急線新百合ヶ丘駅より唐木田行きに乗換えて3駅目 京王相模原線永山駅で小田急多摩線に乗換え2駅です 急行、多摩急行は停まりません。区間準急、各駅停車をご利用下さい または京王相模原線若葉台駅から徒歩(10分弱)も便利
行く先 (解散場所)	川崎市黒川～町田市、南野バス停にてpm3時頃解散予定(バスで 京王線多摩センター駅へ)
見所 その他	黒川の里山を歩いて、林・畑・水田などの環境による植生の違いを 観察します。身近な植物をじっくり見直してみましよう 数十年前にタイムスリップしたような農道や旧道もいまでは貴重な 光景です
地図	
コース	駅前～汁守神社～横山道～水田の植物観察～いずみ浄苑(昼食)～ 真光寺～飯守神社～(中世伝甲州道)～別所～南野バス停 解散1 5時頃 行程は5～6km、歩きやすい道です コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円